

# 希望に向かって...

医療法人医誠会 介護老人保健施設  
**エスペラル近江八幡**  
 〒523-0071 滋賀県近江八幡市大房町 1002 番地 1  
 TEL : 0748-32-1165 FAX : 0748-32-1190

## らくはた楽トーク

vol.2



看護部長  
 うえき せいこ  
**植木 清子** より

後編

(はなてんびん2月号の続き) 一人ひとりが信念を持ち、日に日にモチベーションが上がっていく姿を見ていくと嬉しくなりますし、その後押しもしていきたいと思っています。もちろん、私自身若いスタッフから教わることもあります。また、当施設で働くスタッフはみんな心根が優しく、話をしっかり聞いてくれるので、魅力的な職場だと感じています。

力を入れているのは、様々な“垣根”を取り払うこと。2~4階でフロアごとにスタッフが別れており、それぞれの立場で責任感を持つことも大切ですが、直接の担当ではないことを理由に「できない」と線引きをしてはいけません。どこかのフロアで問題が発生したら、すぐに別フロアのスタッフがカバーできる体制が必要です。また、看護と介護の連携こそ利用者さん本意のサービスに繋がります。介護スタッフが中心となって発言が必要な場面では、自信を持って声に出せるような空気づくりも進めています。最近ではフロアや職域を越えた連携がスムーズになりつつあると感じていますし、この雰囲気は今後も大切にしたいと思います。

看護職に比べて介護職の歴史は浅く、まだまだ多くの課題があります。それぞれの専門性を高めることが重要ではあるものの、そこに意識の違いがあってはなりません。大切なのは利用者の目線で何が 필요한のかを考えること。日々同じことをするのではなく、一人ひとりに応じたケアが提供できるように考え、実践する。“プロ”としての意識の醸成が必要であり、その環境づくりのために私も考え、行動していきたいと思っています。

## 自慢のアレコレ

年末年始にお参りできない方へと手作り!  
 毎朝お参りされる方もいます  
 by スタッフ



エスペラル  
 2. いつも笑顔で明るく暮らそう  
 笑っているかい○○さん  
 悪癖や小言はお気遣いまで  
 嫌でござるよ○○さん  
 エーサーエスペラル  
 2. いつも感謝で明るく暮らそう  
 手足こまめに動かして  
 聞いているかい○○さん  
 頑固強情はお気遣いまで  
 嫌でござるよ○○さん  
 エーサーエスペラル  
 3. いつも元気に声掛け合いましょ  
 仲良しよしのあせなりさん  
 聞いているかい○○さん  
 共に暮らそうお気遣いまで  
 嫌(や)でござるよ○○さん  
 エーサーエスペラル

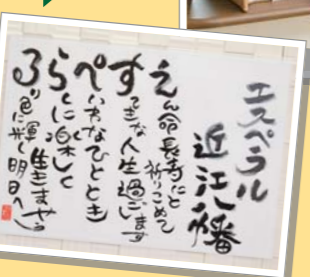


デイケア利用者と合唱♪お富さん Ver. エスペラル  
 by カラオケボランティアの方々

スタッフ・入所者の方々のお心遣いがあちこちに! エスペラルに関わる方々全員が一体となった雰囲気づくりを進めています



秀逸&達筆!短歌♪  
 by デイケア利用者



エスペラルへの思いを表現したお名前ポエム  
 by スタッフ

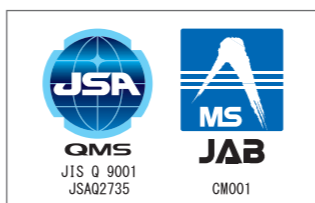
スタッフ募集中! 詳しくは採用担当者までお気軽にお問い合わせください

**診療科目** 内科・外科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・人工透析内科・人工透析室(38床)・リハビリテーション科・泌尿器科(休診中)

**診察日** 月~金 午前診察・午後診察 / 水・木は午後休診  
 土 午前診察 ※日曜日・祝日は休診

**診療時間** 午前診察 9:00~11:30 / 午後診察 13:30~16:00

**地域医療連携室** TEL : 0748-48-5558 FAX : 0748-48-5722  
 広報責任者 山本 寛人



# はなてんびん

医療法人医誠会  
**神崎中央病院**

Vol.91 2016.3

発行：地域医療連携室

Pick up photo



**回復期リハビリテーション病棟からの景色** 神崎中央病院の回復期リハビリテーション病棟は5階にあることから見晴らしもよく、四季の移り変わりを楽しみながら気持ちよくリハビリに専念し、治療に励むことができます。食堂や一部の病室からは新幹線を上から眺めることもできます。



神崎中央病院5階病棟から撮影

## contents

神崎最前線：回復期リハビリテーション病棟のご紹介  
 特集：看護と介護のハーモニー  
 糖尿病教室 / 看護師さん募集 / 公開講座  
 エスペラル近江八幡だより 希望に向かって...

# 回復期リハビリテーション病棟のご紹介

5階病棟師長 しんうしごめ かおり  
新牛込 香



神崎中央病院に入職して17年が経ちました。一般病棟・療養病棟を経験し今は回復期リハビリテーション病棟に3年間勤務しています。

では、回復期リハビリテーション病棟ってどんな病棟なのか・・・。

平成22年に神崎中央病院に開設された回復期リハビリテーション病棟のご紹介を少ししたいと思います。  
当院の5階にあり、見晴らしもよく、またリハビリ室と同じ階であることから廊下を歩行訓練の患者さんが行き来する活発な病棟です。

脳血管疾患や大腿骨等の骨折術後等、対象となる疾患の治療を急性期病院で受けられた後、多くの患者さんは元の生活にすぐに戻ることは困難であり、退院を勧められたご家族も困ってしまいます。回復期リハビリテーション病棟では、命の危機を脱してもまだ、サポートが必要な患者さんを受け入れ、他職種が連携し、入院が可能な定められた期間の中で集中的にリハビリを受けていただいています。

入院期間の中で、「どの患者さんも合同カンファレンスを月1回行い、医師・看護師・リハビリスタッフ・社会福祉士・ご家族さん・患者さん本人の参加の中、退院後の生活に焦点をあてて、患者さんの目標（ゴール）を決めています。

病棟では、患者さんがリハビリで習得された動作を実際の病棟生活に安全に生かしていただけることを目的に毎朝、リハビリテーション科とミーティングを行い情報交換を行っています。

また、「回復期リハビリテーション病棟の10項目宣言」を病棟に掲げ、日々援助をさせていただいています。



入院患者さんからの贈り物

- ①食事はデイルームや食堂にて誘導し、経口摂取への取り組みをする。
- ②洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施する。
- ③排泄はトイレに誘導し、おむつは極力使用しない。
- ④入浴は週2回以上必ず浴槽に入りましょう。
- ⑤日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施する。
- ⑥可能な限り抑制はしない。 などがあります。

この10項目宣言を実践し、入院中に退院後の具体的な生活を描けるような看護を提供し、外部のケアマネージャー・介護福祉士等に具体的な示唆を提示し、在宅生活を継続支援していくための情報提供もしております。

口から食べることの喜び・トイレに行けることの喜びなど患者さんの回復を共に喜び、これからも元気いっぱいのスタッフが日常生活の援助をさせていただきます。

## 特集

# 看護と介護のハーモニー

神崎中央病院では1月22日、2015年4月から取組んだ看護研究と介護実践成果の発表会を開きました。

今年度から看護師だけの取組みではなく、「看護と介護のハーモニー」と題して看護補助者も参加。各立場から疑問・問題点を洗い出し、解決に向けて研究に取り組むことで看護ケアの質的向上を図ります。

看護研究は2B病棟の「酸素カニューレによる耳介損傷の解消に向けて～酸素マスクの耳介損傷に対する対策と比較・検討～」が、介護実践成果では、4A病棟の「四季の壁紙制作」がそれぞれ最優秀賞を受賞しました。

今回の特集では、看護師の青山真哉さん、日高優希さん、山中里美さんが中心となって取組んだ2B病棟の看護研究結果を紹介します。



## 酸素カニューレによる耳介損傷の解消に向けて

～酸素マスクの耳介損傷に対する対策と比較・検討～  
キーワード：医療関連機器圧迫損傷 酸素カニューレ 耳介損傷



青山真哉・日高優希・山中里美、2B病棟

### Iはじめに

日本では在宅にて酸素療法（HOT）を受けている患者が15万人いる、というデータがあり（2014年現在。エア・ウォーターメディカル株式会社調べ）、肺機能の低下・脳血管疾患・廃用性症候群

の増加により在宅だけではなく病院や施設で酸素療法を必要とする患者も多くなる。

当病棟では平成27年4月現在、酸素カニューレによる酸素療法を必要とする患者が12名おり、多くが寝たきりで自ら痛みを訴えられない。長期間酸素カニューレの使用・同一部位の圧迫・摩擦により耳介部に皮膚トラブルのある患者が10名いた。酸素マスクによる耳介損傷の予防・解消法については伊藤夏美らの研究「酸素マスクによる皮膚トラブル予防方法の検討」などで明らかになっている。しかし酸素カニューレによる耳介損傷については明らかにされていない。

そこで伊藤らの研究を酸素カニューレでも代用し、効果を証明できれば酸素カニューレによる耳介の皮膚トラブルを防ぐことができるのではないかと考えて実施した結果、効果があったのでここに報告する。



## II 研究方法

1. 対象 :2B 病棟で酸素カニューレによる酸素投与を行っている患者で、平成 27 年 7 月 1 日～ 10 月 31 日までの間で 3 ヶ月継続して観察可能と思われる者。

2. 期間 :平成 27 年 7 月 1 日～ 10 月 31 日まで

3. 方法 :

1) 除圧に使用する化粧パフ (以下パフと略す) を耳の形に合わせて 3cm ～ 5cm の幅に切り、外側に切り込みを入れ、酸素カニューレの耳介部分に装着する。(写真 1、2)



(写真 1)



(写真 2)

2) 酸素カニューレの長さは鼻から耳介を通過してオトガイ下部の外周囲を測定し +3cm するところにマーキングを入れる。

## III 結果

対象患者 12 名のうち、3 ヶ月実施できたのは 7 名であった。他 5 名は酸素マスクに変更・本人の拒否・パフの誤飲のリスクがあった為、1 ヶ月以内に中止になった。7 名の平均年齢は 86.4 歳だった。アルブミン値は、終了時採血データが無い者が 2 名いた。残り 5 名の平均値は、研究前が 2.9mg/dl、研究後が 3.0mg/dl と大幅な改善・悪化はしていなかった。3 ヶ月実施できた 7 名の結果を見ると、3 週目に発赤・圧痕・潰瘍の観察項目において、ありの人数が増えていた。開始時、トラブルなしだった 3 名も、3 週目までに発赤や圧痕が 1 度は出現していた。酸素カニューレのズレは、変動はあったが常に発生していた。

開始時、発赤ありが 4 名だったが、終了時は 0 名になっていた。そのうち 2 名が圧痕ありだったのが、終了時は 0 名になっていた。

開始時トラブルのなかった A 氏は、パフ使用開始直後から発赤や圧痕が出現し、潰瘍にまで発展した。仙骨に IV 度の褥瘡形成があり、褥瘡も改善せず、処置やシムス位での体位交換を行っている。アルブミン

3) チェック表を作成し、パフの使用前後の皮膚状態 (発赤、圧痕、潰瘍、酸素カニューレのずれ) を開始日から 1 週間は毎日、2 週目以降は週 1 回記録する。年齢・酸素投与開始時期、NG チューブの有無、頸部の自動運動の有無、アルブミン値をあらかじめ調べておく。アルブミン値はパフ使用前後の日に採血日が最も近いものを使用する。

4) パフの交換時期は酸素カニューレ交換時と同時、または汚染時・破損時とする。

5) チェック表に従って集計し、効果を評価する。皮膚トラブルがあった場合、発生時と改善時に写真を撮り比較する。

4. 倫理的配慮 :

研究の主旨、個人が特定されない事、研究への協力は自由意志であり、協力できない場合でも今後の治療・看護において支障はない事、研究の前後を比較するために写真を撮る可能性があること、得られた写真や情報は当研究以外に使用しないことを文書と口頭で説明し、書面で同意を得た。

値も 2.5mg/dl と低く、栄養状態の悪化もみられている患者であった。

研究当初は厚さ 0.7cm 幅 3.2cm の三角型のパフ (写真 1) を使用していたが、酸素カニューレからパフがとれたことや酸素カニューレに捻じれが生じたこと、耳介でパフを弾いてしまい酸素カニューレが外れていたことがあったため 2 回改良した。3 週間後の最終形態はパフを三日月形にカット (写真 2) し、両面テープを 0.3cm 幅から 0.5cm 幅に変更したものになった。



## IV 考察

開始時トラブルのあった 4 名は、1 ヶ月目から発赤・圧痕・ズレが減少し終了時にはズレ以外のトラブルが改善している。菅野ら<sup>1)</sup>は「皮膚に触れる面積を大きくし厚みをもたせたことで、耳介部にゴムが直接接触することがなく、圧が分散され発赤、疼痛の出現の予防に効果があった」と述べている。このことから、酸素カニューレでも、耳介部にシリコン部分が直接接触せず、皮膚に触れるパフの面積が大きくなったことと両面テープの幅も増えたことでズレにくくなり、圧が分散されたことが発赤・圧痕の改善につながったのではないかと考える。

潰瘍まで発展してしまった A 氏は、皮膚が弱く、褥瘡を繰り返しやすい状況にあり右側へ頸部の拘縮が強く、パフが密着しなかったことで局所組織への圧迫による血行障害が起こり潰瘍にまで至ったと考える。

パフをつけることで一時的に皮膚トラブルがあった患者 3 名ともに頸部の拘縮があり 30°の右仰臥位になると耳が圧迫され酸素カニューレが引っ張られて摩擦の除去・除圧ができていなかったことが皮膚トラブルの起こった原因と考える。

酸素カニューレのズレは、自力体動の有無に関わらず、体位交換・リハビリ・吸引等の他動的に力が加わることで発生してしまった。パフを使用しても、完全なズレ予防にはならなかったのは、他動的に加わる力の方が強かった為と考える。

耳介損傷の予防・解消するためにパフ (合成ゴム SBR) を使用したことについては特性である密着度が高く、圧迫感を和らげる効果があったのではないかと考える。また、片耳 4.5 円と安価であることから、長期的に使用するには、金銭的負担も少なく、継続しやすい。

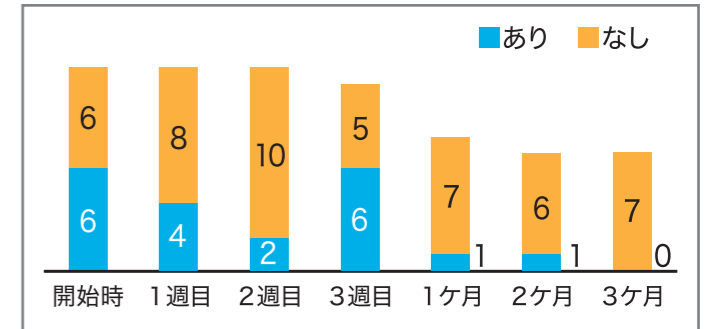
しかしパフを使用するには 1 名の装着や付け替えにつき 3 ～ 5 分程度要する事から複数患者への継続となると困難な部分があった。

## V 結論

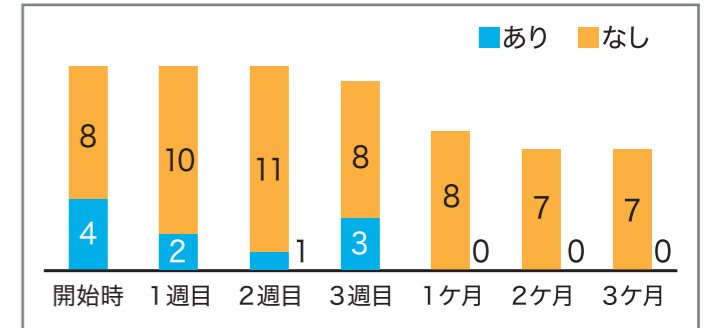
1) 耳の形に沿ったパフは除圧・摩擦の除去に効果があり、発赤・圧痕の予防・改善につながる。

2) 他動的な力によってズレが出現してしまうため、そのつど修正が必要である。

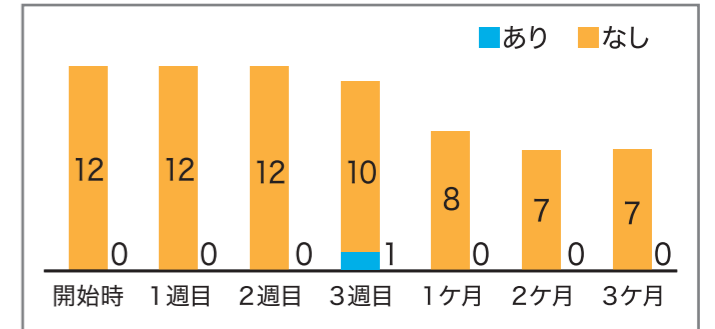
■ 図 1 発赤の有無



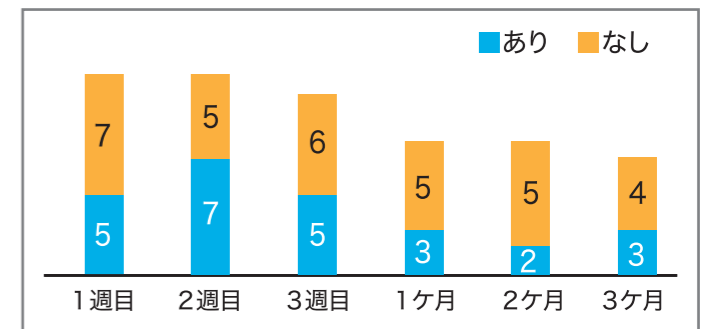
■ 図 2 圧痕の有無



■ 図 3 潰瘍の有無



■ 図 4 カニューレのズレ



### ■引用文献

- 菅野真希、斎藤雅美、西村由美子、他（2012）：  
酸素マスクによる耳介損傷予防装具の考察、看護実践の科学、Vol.37、No.3、  
P72-78

### ■参考文献

- 伊藤夏美、橋本美紅、吉倉美香、他（2009）：  
酸素マスクによる皮膚トラブル予防方法の検討ーレストンパットを用いてー、  
第40回看護総合、P81-83
- 工藤翔二（2014）：ほっとHOT入門、エア・ウォーターメディカル株式会社
- 真田弘美（2004）：オールカラー 褥瘡ケア完全ガイド、学習研究社
- 千野由利香、久保田弥里、清水恵、他（2004）：  
酸素マスクのイヤーストラップの開発と効果、第35回看護総合、P73-75
- 長沼紀子、中塚千恵子、木村由美、他（2007）：  
酸素療法を受けている患者の耳介損傷予防装具の考案、第38回成人看護Ⅱ、  
P413-415
- 溝上祐子（2006）：カラー写真とイラストで見てわかる！創傷管理、メディカ出版



## 今年度の看護研究を終えて

2B病棟師長 そが さちこ  
曾我 幸子



2B病棟は今年度の院内看護研究発表会にて最優秀賞をいただきました。

看護研究を進めた中心メンバー3名は、研究がどういうものを学ぶこと

から始まり、統計や論文の書き方など様々なことを学びながらの取組みとなりました。煩雑な業務に追われながらの研究は決して楽なものではなかったと思います。しかし、酸素カニューレ使用の患者さんの苦痛やトラブルを少しでも取り除くことはできないか、という日頃からの思いが活動の源になり、1年間頑張ってきました。患者さんのご家族に研究の同意を得るための説明をさせて頂いた際「それで楽になるのなら是非お願いします」との言葉を頂いたことも大変励みになったと思います。

今回の研究にご協力していただいた多くの皆さまに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。今後も患者さんの思いに寄り添える看護を提供できるようスタッフ一同頑張りたいと思います。



## 糖尿病教室

平成28年度上期のご案内  
毎月第3木曜日の11時から（1時間程度）

平成28年度上期の糖尿病教室を以下の日程で開催します。参加費無料、事前申込不要ですので、お気軽にご参加ください。

場所 神崎中央病院 2階 新会議室

講師 医師、管理栄養士、看護師、理学療法士、  
薬剤師、臨床検査技師

興味のある回のみ  
の参加もOKです

- |          |                 |   |
|----------|-----------------|---|
| 4月21日(木) | 小瀬木医師<br>管理栄養士  | 「糖尿病ってどんな病気？」<br>「知っていますか？あなたに必要なカロリー」                    |
| 5月19日(木) | 理学療法士<br>管理栄養士  | 「楽しい運動療法 血糖値を効果的に下げる運動方法」<br>「知っているようで意外と知らない!?食品のグループ分け」 |
| 6月16日(木) | 小瀬木医師<br>管理栄養士  | 「糖尿病は合併症が怖い!!」<br>「気をつけたい『さ・し・す・せ・そ』～調味料の使い方～」            |
| 7月21日(木) | 薬剤師<br>管理栄養士    | 「あなたはどんな薬を飲んでいるのか！（糖尿病の薬の話）」<br>「糖尿病食にぴったり!おすすめ食品&ひかえめ食品」 |
| 8月18日(木) | 臨床検査技師<br>管理栄養士 | 「検査で何がわかるの？（糖尿病検査データの見方）」<br>「おやつと外食のベストチョイス！（選び方）」       |
| 9月15日(木) | 看護師<br>管理栄養士    | 「足のお手入れ（糖尿病で足を切らないために）」<br>「これであなたも糖尿病食マスター!!」            |

## 看護師さんを募集しています!

— 私達と一緒に働きませんか? —

神崎中央病院では現在、20代～50代のスタッフが活躍しています。好きな看護の仕事長く続けられるようワークライフバランスを大切に、経験が浅い方・ブランクのある方も丁寧に指導し、安心して働ける環境を整えています。配属先、勤務時間などはお気軽にご相談ください。

### 復職支援セミナー開催日程

平成28年 5月11日(水)

平成28年 7月13日(水)

時間 9:30～13:30

会場 神崎中央病院

●奇数月の第2水曜日に開催します●  
詳しくは当院の看護部までお問い合わせください。



### 公開講座

## 体動かし介護予防!

O・Hプラザアウルで健康講座開催

2月17日、近江八幡市のシルバーマンションO・Hプラザアウルのコミュニティルームで、公開講座を開催しました。神崎中央訪問看護ステーション理学療法士の中村晋伍さんを講師に「今後介護が必要とならない為に…予防運動のご紹介」と題して講演。寝た状態、座った状態、立った状態で無理なく簡単にできる運動を紹介し、「水分を摂りながら、普段の生活に運動を取り入れましょう。まずは軽い負荷から始めてみてはいかがでしょうか」と呼びかけました。

